

# 「令和の時代の滋賀の高専」 設置に向けた懇話会 (第3回) 資料

令和3年10月12日 (火)

# ■ 第3回有識者懇話会の目的と概要

## 今回の目的

【**学びの専門分野案**】や【**設置すべき施設・設備に関する必要要件**】について、構成員の皆様のご意見をお聞かせください。

### 懇話会メンバー選定

#### 第1回懇話会 (6月24日)

#### 育成すべき人物像

##### 高専の現状

- 全国の高専事例からみた特徴や人材の傾向

##### 将来技術を見据えた育成すべき人物像

- 先端分野（宇宙・情報通信産業）の現状と今後の展開、活躍が期待される人材像

##### 令和の時代の滋賀の高専として育成すべき人物像

#### 第2回懇話会 (8月31日予定)

#### 学びの方向性

##### ニーズ調査等と分析

- 産業動向調査報告
- 各種アンケート報告
  - ・ 県内中学3年生
  - ・ 全国の高専生
  - ・ 県内企業、事業所

##### 令和の時代の滋賀の高専として目指すべき学びの方向性

- 「情報技術」を柱に
- 柔軟な育成コース
- 人と自然に寄り添う

### 今回

#### 第3回懇話会 (10月12日)

#### 学校規模の描出

##### 学びの専門分野案

- 「情報」との掛け算
- コアとなる専門分野
- 卒業後の活躍領域イメージ

##### 入学定員規模

- 入学者ニーズ
- 人件費コスト等

##### 設置施設・設備

- 満たすべき条件
- 望ましい施設

##### 設置主体の検討

- 最適な主体の導出

#### 第4回懇話会 (11月中旬頃)

#### 事業シミュレーション

##### 学校場所の要件

##### 経費シミュレーション

- 設置経費
- 運営経費

##### 令和の時代の滋賀の高専として目指すべき学校の姿(骨子素案)

- 試案の提示
- 意見交換

#### 構想骨子策定 (翌3月)

#### 構想骨子

### その後の検討項目

- 設置場所の決定
- 設置主体組織
- 設置・運営費の精査
- 校長の選定・教員の確保
- 詳細なカリキュラム・シラバス
- その他具体的事項

## 高専構想

## <懇話会の流れ>

1 &gt;



### 各種調査結果のご報告 ゲストスピーカーによる プレゼンテーション

- ✓ 滋賀県の高専の設置にあたり検討が必要な「学びの専門分野」「設置規模」「設置施設・設備」「設置主体」についての調査結果についてご報告いたします
- ✓ 「施設・設備」については、ゲストスピーカーによるプレゼンテーションを通し、最新のトレンドや考え方を共有いただきます

2 &gt;



### 学びの専門分野や設置すべき 施設・設備についての 意見交換

- ✓ 調査結果等を踏まえ、「令和の時代の滋賀の高専」における「学びの専門分野」のあり方や設置が望ましい「施設・設備」についてご意見をお聞かせいただければ幸いです

## <アジェンダ>

1

### 開会

- 主催者挨拶
- 座長挨拶
- ゲストスピーカーのご紹介

2

### 報告・意見交換

- 報告事項（35分）
  - 滋賀県高専の学びの専門分野について
  - 滋賀県高専の設置規模について
  - 滋賀県高専に設置すべき施設・設備について
  - ◆ ゲストスピーカーによるプレゼンテーション（15分）
    - ✓ テーマ：「新しい学びの場と地域を結ぶ」
    - ✓ 登壇者：塩瀬隆之氏（京都大学総合博物館准教授）
  - 滋賀県高専の設置主体について
- 意見交換（70分）

3

### 閉会

- 座長挨拶
- 事務連絡

# ■ 報告・検討事項のまとめ

項目	目的および実施内容	注目した視点等	結果・提案
学びの専門分野	<p><b>(目的)</b> 産業及び教育における今後の動向を踏まえた、高専で必要な専門的学びの分野の整理</p> <p><b>(実施内容)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 歴史的背景を踏まえた高専の役割の明確化</li> <li>② 滋賀県における主要産業及び産業における動向・必要な技術の把握</li> <li>③ 高専全体の動向</li> </ol>	<p>①：就業構造・産業構造の変化を見据え、<b>今後は社会・人・モノ・サービスとものづくりとをつなぐ視点をもって貢献できる高度な技術者の養成が求められている</b></p> <p>②：アンケートや懇話会の意見から、本県の高専では、<b>建設系・機械系・電気電子系分野</b>を学びの分野として設置し、<b>ICT やデータ活用のスキルも併せて学べる</b>ことが望ましい</p> <p>③：<b>情報分野と様々な分野の掛け合わせ、地域社会のニーズに対応</b>できる人材育成を目指して、全国高専でも改革が進行中</p>	<p>● <b>情報技術に加え、機械系、電気電子系、建設系</b>をコアな専門分野とした学びの提供が望ましい。</p> <p>● 一つの専門分野だけでなく、<b>多様な掛け算で、学びのアップデートや価値の創出</b>ができる柔軟さが必要</p>
設置規模	<p><b>(目的)</b> 高専への入学ニーズや出口ニーズ、コストの観点から踏まえた 設置すべき規模（入学定員案）の導出</p> <p><b>(実施内容)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 実際に滋賀に高専が設置された場合の入学志願者数の算出</li> <li>② 学校運営における定量・定性的観点を踏まえた合理的な入学定員（案）の整理</li> <li>③ 産業界のニーズを踏まえた入学定員（案）の妥当性把握</li> </ol>	<p>①：<b>県内中学生アンケートや全国の高専進学者数等を基に、将来人口推移を踏まえ、想定される入試倍率</b>を基に算出</p> <p>②：<b>学生数に係る収入と教員等人件費の収支バランス（定量的観点）、教育的観点や人材輩出の観点（定性的観点）</b>等を考慮</p> <p>③：<b>県内企業アンケートや全国の高専における求人倍率</b>等を考慮</p>	<p>● <b>想定志願者数を230人程度</b>として想定し、適切な入学定員案を引き続き検討</p>
設置施設や設備	<p><b>(目的)</b> 高専の敷地及び施設・設備が最低限満たすべき条件の明確化（今後さらに要件整理）</p> <p><b>(実施内容)</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 敷地環境に関する条件の把握</li> <li>② 敷地規模に関する条件の把握</li> </ol>	<p>①：<b>高等学校施設整備指針</b>の記載に基づき、安全性、教育上のふさわしさ等の条件を抽出</p> <p>②：<b>高等専門学校設置基準</b>に基づき、必要となる施設および面積を整理するとともに、全国の高専における施設等を参照</p>	<p>● 防災や周辺の交通環境の観点から安全であり、風俗や遊興施設等教育の妨げになる施設が周辺にない場所を選定すべき</p> <p>● 校舎に加え、体育館、寄宿舎、厚生補導に関する施設、実験・実習工場、地域共同テクノセンターが必要</p> <p>● 上記に加え、運動場等が必要</p>
設置主体	<p><b>(目的)</b> 学校運営、教育、研究の観点を踏まえた、最適な設置主体の導出</p> <p><b>(実施内容)</b> 考えられる設置主体形態における、学校経営、教育、研究におけるメリット・デメリットの把握及び整理</p>	<p>○ <b>国立、私立、公立</b>の実現可能性を踏まえた上で、<b>人事面、財政面、学生の視点、地域連携</b>等の面で比較</p>	<p>● 実現可能性の高いと思われる「公立」の類型で比較した場合、<b>独立行政法人が望ましい。</b></p>

# ■ 学びの専門分野の調査・検討

○これまでの懇話会での検討や調査内容を踏まえ、学びの専門分野(案)の導出を行うことを目的としている

## STEP 0

検討内容振り返り及び  
高専に求められる役割  
の整理



- ✓ 学びの分野におけるこれまでの検討内容の振り返り
- ✓ 高専の歴史的経緯及び今後高専に求められる役割(想定)についての整理

- ✓ 第二回懇話会を踏まえると、**情報技術を軸とした学びの分野の検討**が必要と結論づけられる
- ✓ **情報技術と工業系技術を掛け合わせ、社会・人・モノ・サービスとのづくりとをつなぐ技術者の養成**が求められている

## STEP 1

産業領域における  
トレンドを踏まえた学びの  
専門分野のあり方の検討

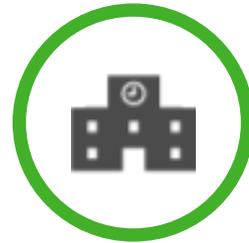


- ✓ 定量・定性データより、滋賀県において特に高専生の活躍が期待される二次産業における主要産業分野の把握
- ✓ 各産業分野において今後必要な技術の導出及び専門的な学びの分野の整理

- ✓ 滋賀県においては、二次産業の中では**製造業及び建設業が県内の主要産業**である
- ✓ 今後の動向を踏まえると、**情報技術に加え、機械設計(機械)や、制御(電気電子)、測量(建設)等の技術が必要**である

## STEP 2

教育領域におけるトレンド  
を踏まえた学びの専門分  
野のあり方の検討



- ✓ 高専全体の政策的な指針や他校の取り組みの傾向を通じた専門的な学びの分野の整理

- ✓ 文科省は**高専において情報、IoTといった工業分野以外の学びを取り入れる重要性を提唱**
- ✓ 他の高専においても、**情報系及び工業系(機械や電子等)の複合的な学びを提供**

## GOAL

滋賀の高専において提  
供すべき学びの専門分  
野のイメージの導出



- ✓ 滋賀の高専における学びの専門分野のあり方(イメージ)及び想定されるキャリアパスの導出

- ✓ 産業・教育のトレンドを踏まえると情報技術に加え、**機械・電気電子・建設**の3分野の学びの提供が望ましい

# ■ 学びの専門分野の絞り込み（案）

○1年次は情報技術を中心に学び、2年次以降では、1年次に身に付けたスキルをベースとして、専門コースにおいて応用専門分野を学ぶことで、活躍できる分野を広げることが可能と考える

## 各産業分野

に通じる学び、スキル

**絞り込みの考え方：多様な選択肢、産業との親和性、社会課題を解決する技術**

- 多様な選択肢・・・情報技術をはじめ、学びの分野の組み合わせで、多様な選択肢を創出
- 産業との親和性・・・工業系において機械系および電気電子系の学びは多くの産業のベース
- 社会課題を解決する技術・・・これからの地域を支える技術として、環境・インフラ系も重視

## 「令和の時代の滋賀の高専」における4つのコア分野（案）

機械系

電気電子系

情報技術系

建設系  
(環境・インフラ系)

### <活躍できる技術分野などのイメージ（例）>

関連する学びの専門分野

地域や大学との連携

卒業後の活躍領域イメージ

機械系	電気電子系	情報技術系	建設系		ロボティクス
機械系	電気電子系	情報技術系	建設系		スマートファクトリー
機械系	電気電子系	情報技術系	建設系	+ 地域エネルギー	自然エネルギー
機械系	電気電子系	情報技術系	建設系		遠隔操作
機械系	電気電子系	情報技術系	建設系	+ モビリティ・防災	衛星データ活用
機械系	電気電子系	情報技術系	建設系	+ 農林業の課題	スマート農林業
機械系	電気電子系	情報技術系	建設系	+ データサイエンス	起業、研究
機械系	電気電子系	情報技術系	建設系	+ 看護・医療	デジタルホスピタル

滋賀・びわ湖で学ぶ

情報技術から考える

○滋賀県での主要産業や高専全体を取り巻く動向を踏まえると、情報技術をベースとし、機械、電気電子、建設の工業分野の学びを複合的に提供することが良いと考える

## 就職、進学、起業、その他



特に高専生に身に着けてほしい専門的な技術や知識についてご意見を伺いたい

○入学ニーズや、コスト、産業界からの採用ニーズの観点から、入学定員案を検討することを目的とする

## STEP 1

高専が新設された場合に入学可能性のある学生数（入学ニーズ）の調査



- ✓ 現在の県内外の各市町村における高専進学者数を将来人口推計等に鑑み算出する

## STEP 2

学校運営における定量・定性的観点から踏まえた妥当性のある入学定員の検討



- ✓ 学生数に係る収入と教員等人件費の収支及び定性情報を勘案し、設置すべき定員数の参考とする

## STEP 3

産業界からの採用ニーズの観点から踏まえた妥当性のある入学定員の検討



- ✓ 県内企業の高専卒生の採用人数を推計し、設置すべき定員数の参考とする

## GOAL

滋賀の高専の入学定員案を策定



- ✓ 滋賀県の高専において最適な入学定員案を策定

# ■ 設置規模の調査・検討

○ 各種調査結果を踏まえると、想定志願者数は230人程度と考える。

		考慮した定量的観点	考慮した定性的観点	検討結果		
				志願者数*	想定入試倍率	
STEP 1	全体 (県内外の入学ニーズ)	※ 下記詳細	※ 下記詳細	✓ 合計 <b>230人程度</b>	160人 定員	120人 定員
	(県内出身者) 高校進学時に県外の高専を志望していた人の中で、滋賀県高専へ進学する人	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 現在の各市町村の高専進学者数</li> <li>✓ 各市町村の将来人口減少率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 滋賀の高専の選択率</li> </ul>	✓ 65人程度		
	(県外出身者) 高校進学時に高専を志望していた人の中で、滋賀県高専へ進学する人	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 現在の各市町村の高専進学者数</li> <li>✓ 各市町村の将来人口減少率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 各市町村における高専の有無</li> <li>✓ 滋賀の高専の選択率</li> </ul>	✓ 80人程度	約 1.4倍	約 1.9倍
	(県内出身者) 高校進学時に高専以外を志望していた人の中で、滋賀県高専へ進学する人	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 現在の各市町村の高専進学者数</li> <li>✓ 各市町村の将来人口減少率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 高専への強い進学意向有無 (県内中3生アンケートを基に勘案)</li> <li>✓ 高専を受験する学力レベル</li> </ul>	✓ 85人程度		
STEP 2	人件費等のコスト等を踏まえた観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学生数に係る収入と教員等人件費の収支バランス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ コミュニティ形成や学校満足度等の教育的観点</li> <li>✓ 高専設置基準の観点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ コスト面、高専設置基準等の観点から、40の倍数となる人数、</li> <li>✓ 少なすぎる定員は望ましくない</li> </ul>		
STEP 3	産業界からの採用ニーズを踏まえた観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 全国の高専卒生の採用状況</li> <li>✓ 県内の高専卒生の採用状況と今後の採用意向 (県内アンケートを基に算出)</li> </ul>	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 県内には相当数の高専生の採用ニーズがある</li> </ul>		

\*志願者数は周辺県の高専における平均入試倍率（1.7倍）を基に、算出した入学予定者数から逆算

○敷地候補を一時スクリーニングするために敷地が最低限満たすべき条件を洗い出すことを目的としている

## STEP 0

最低限必要な敷地環境  
に関する条件の整理



- ✓ 周辺環境の条件の整理
  - 安全な環境
  - 教育上ふさわしい環境
- ✓ 校地環境の条件の整理
  - 災害時等の安全性

## STEP 1

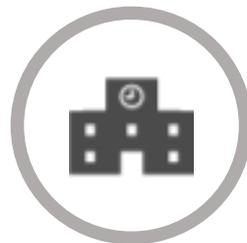
想定される敷地規模  
に関する条件の整理



- ✓ 想定される施設・設備を踏まえた規模の算出
  - 高専設置基準において想定される規模
  - 滋賀県として想定される規模

## STEP 2

望ましい敷地条件の整理



- ✓ 最低限必要な条件に加え、より魅力的な高専にするための施設・設備の検討を通じた敷地条件の整理
- ✓ バリアフリーや環境負荷軽減等の観点も踏まえ校舎の具体的な仕様についての検討

## GOAL

高専設置場所及び  
施設・設備の策定



- ✓ 滋賀県高専の設置場所及び整備すべき施設・設備の策定

本日のご報告範囲

今後の検討範囲

○敷地環境に関する条件は、高等学校施設整備指針の記載事項を基に、「安全性」、「教育上のふさわしさ」等の条件を抽出

## <敷地環境に関する条件>

### ● 最低限必要な設置地域の条件①



周辺環境

#### 【安全な環境】

- ✓ 頻繁な車の出入りを伴う施設が立地していない
- ✓ 騒音，振動，臭気等を発生する工場その他の施設が立地していない

#### 【教育上ふさわしい環境】

- ✓ 風俗営業及び性風俗関連特殊営業の営業所が立地していない
- ✓ 興行場のうち，業として経営される教育上ふさわしくない施設が立地していない
- ✓ 射幸心を刺激する娯楽を目的として不特定多数のものが出入りする施設が立地していない



その他の望ましい条件については今後検討を行う

### ● 最低限必要な設置地域の条件②



校地環境

- ✓ 自然災害に対して安全である
- ✓ 建物，屋外運動施設等を安全に設定できる地質及び地盤である
- ✓ 危険な埋蔵物や汚染のない土壌である
- ✓ 緊急時の避難，緊急車両の進入等に支障のない敷地である

### ● 収集する情報



既存資料

- ✓ 地図 : 施設の立地状況
- ✓ ハザードマップ：自然災害の状況
- ✓ 地盤情報ナビ：地盤の状況
- ✓ 道路台帳 : 前面道路の幅員



聞き取り

- ✓ 敷地の前用途：危険な埋蔵物や汚染土壌の状況

○敷地規模に関する条件は、高等専門学校設置基準を踏まえ、想定される施設面積を設定

## <敷地規模に関する条件>

——— 高等専門学校の主な施設（高専設置基準） ———

施設		備考
校地	• 空地	必須
	• 運動場	同一敷地または隣接敷地
校舎	• 校長室、教員室、会議室	必須
	• 教室、研究室	必須
	• 図書館、保健室、学生控室	必須
	• 情報処理、語学学習のための施設	なるべく設置
その他施設	• 体育館 • 講堂、課外活動施設、その他 • 厚生補導に関する施設 • 寄宿舍	なるべく設置
附属施設	• 実験・実習工場、練習船その他	学科の種類に応じ、教育上必要な場合

今後、滋賀県における必要性和面積を検討

——— 想定される面積（高専設置基準） ———

施設	面積	備考
校地	学生一人当たり10㎡	
校舎	入学定員が2学級：2,644.63㎡以上	専用
	” 3学級：3,471.07㎡以上	
	” 4学級：4,132.23㎡以上	
工学に関わる学科の校舎	1学科の入学定員が1学級に編成：1,652.89㎡以上 ” 2学級以上に編成：相当面積を上記に加算	専用校舎に加算
工学以外の学科の校舎	別途定める	専用
例) 1学年3学級、工学に関わる学科1学科(3コース)の場合		
	：校地 6,000.00㎡	
	校舎 8,429.74㎡	

# ■ 設置施設及び設備の調査・検討

○滋賀県の高専の施設としては、実験・実習工場、地域テクノセンター等を設置すると想定する。

## <敷地規模に関する条件>

- 【参考】想定される施設の延べ床面積（入学定員120名の場合）

施設		概要	備考	本検討での設定	面積設定	備考
校舎	校長室、教員室、会議室	—	必須	○	8,500㎡	高専設置基準
	教室、研究室	—	必須			
	図書館、保健室、学生控室	—	必須			
	情報処理のための施設	PC(専用アプリ導入)、空調設備、各種サーバ等	任意	○	300㎡	類似高専の平均
	語学学習のための施設	語学教育CALLシステム、空調設備等	任意	×	—	—
その他施設	体育館	体育館、武道場、器具庫等	任意	○	2,700㎡	類似高専の平均
	講堂	—	任意	×	—	—
	その他厚生補導に関する施設	食堂等の福利施設、保健室・医務室・診療室等の保健管理施設、部室等の課外活動団体関係施設、山の家等の合宿研修施設	任意	○	1,000㎡	同上
附属施設	実験・実習工場	—	任意	○	1,200㎡	同上
	地域共同テクノセンター	—	任意	○	400㎡	同上
<b>小計</b>					<b>14,100㎡</b>	
	寄宿舍	定員の4割と想定	任意	(要検討)	4,400㎡	類似高専の平均
<b>合計</b>					<b>18,500㎡</b>	

\*1学年3学級、工学に関わる学科1学科（3コース）、専攻科なしで算定

# ■ 設置施設及び設備の調査・検討

○高専設置基準を踏まえると、建築等に要する面積の他、グラウンドや野球場、テニスコートが設置される場合が多い傾向にあり、バリアフリーや環境負荷軽減等の観点も踏まえた施設整備が必要

## <敷地規模に関する条件>

- 【参考】想定される施設の延べ床面積（120名規模の場合）

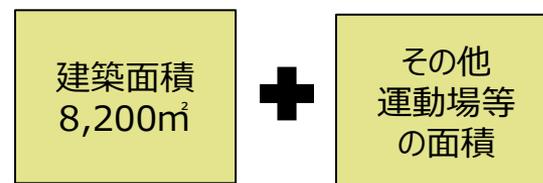
高専として具備すべき施設や設備、機能について  
ご意見をお伺いしたい

建築面積（階数を想定した場合）

想定される敷地面積

	施設	面積 設定	想定 階数	建築 面積
校舎	校長室、教員室、会議室	8,500㎡	3	2,900㎡
	教室、研究室			
	図書館、保健室、学生控室			
	情報処理のための施設	300㎡		
その他施設	体育館	2,700㎡	1	2,700㎡
	その他厚生補導に関する施設	1,000㎡	1	1,000㎡
附属施設	実験・実習工場	1,200㎡	1	1,200㎡
	地域共同テクノセンター	400㎡	1	400㎡
	<b>小計</b>	<b>14,100㎡</b>		<b>8,200㎡</b>
	寄宿舍	4,400㎡	3	1,500㎡
	<b>合計</b>	<b>18,500㎡</b>		<b>9,700㎡</b>

- 高等専門学校設置基準を満たす想定敷地規模



- その他運動場等の規模事例（旭川高専の事例より）

施設	備考	面積
野球場	1面	9,800㎡
多目的グラウンド	350mトラック	15,615㎡
テニスコート	軟式3面、公式3面	4,771㎡
アーチェリーコート	4的	1,116㎡
ゴルフ練習場	7打席	745㎡
サブグラウンド	1面	6,802㎡

\* 1学年3学級、工学に関わる学科1学科（3コース）、専攻科なしで算定



バリアフリーや環境負荷軽減等、人と自然にやさしい施設整備を実現するために求められる観点も踏まえることが必要

○ 経営、教育、研究の観点で最適な設置主体を導出することを目的としている

## STEP1

考えられる設置主体  
形態の整理



- ✓ 現行の学校運営において取りうる設置主体形態の把握
- ✓ 高専を取り巻く現状や傾向を踏まえた際に、考えられる設置主体形態の整理

## STEP2

設置主体形態別のメリット・  
デメリット整理



- ✓ 他校の事例や他業種（病院経営等）での現状を踏まえたメリット・デメリットの整理

## GOAL

最適な設置主体の導出



- ✓ メリット・デメリットを踏まえた、滋賀県高専における最適な設置主体の導出

## ■ 設置主体についての考え方

### 高専の設置形態の比較：（ ）は学校数

**国立（51）**：(独法)国立高等専門学校機構が一括で運営。新たな国立高専設置の動きはなく、厳しい見通し。

**公立（3）**：(独法)東京都立産業技術高専、大阪府立大学高専、(直営)神戸市立高専

**私立（3）**：具体的な新たな担い手（学校法人）が現時点で不在。

→「公立」の類型としては、**県直営**、もしくは**大学を運営する地方独立行政法人**のいずれかに絞られる。

※地方独立行政法人が高等専門学校のみを設置運営することは法令上不可

### ◆ いずれの公立高専でも、既に独法へ移管されたり、独法化を検討している状況

公立高専	独法移管	同法人内組織
東京都立産業技術 高等専門学校（荒川、品川）	H20年 4月	<b>【東京都公立大学法人】</b> ：東京都立大学、産業技術大学院大学 ※大学院大学は、高専品川キャンパスと同敷地
大阪府立大学 工業高等専門学校（寝屋川）	H23年 4月	<b>【公立大学法人大阪】</b> ：大阪府立大学、大阪市立大学 ※令和8年度以降に、高専は府立大学の中百舌鳥キャンパスへ移設予定
神戸市立 工業高等専門学校（学園都市）	現在 検討中	現在、神戸市教育委員会が所管 (本年8月、あり方検討委員会が、 <b>神戸市外国語大学</b> との統合を提案)

### 地方独立行政法人は、法人独自の基準による人事・給与制度、人員計画等の策定が可能

→ **県直営の場合、施策を学びに反映させることに強み**が出せるが、

急速な社会情勢の変化に対応していく上で、**より柔軟な学校運営が期待できるのは独立行政法人。**

**【人事】**：外部人材や民間人材の登用など、人事面での柔軟さ

**【財務】**：一体的運営によるコストの削減（スケールメリットの活用）、多様な外部資金の調達

**【学び】**：大学など同一法人内のリソースを活用による、学びや研究の幅広さや編入学制度の提供

**【地域】**：産業界との共創（学びへの参画、共同研究、資金調達等）